

1 題材について

対 象 学 年	中学校 第2学年
学 習 指 導 要 領	第2学年及び第3学年の内容 A表現（1）ウ
題 材 名	我が国の伝統的な楽器、和太鼓を演奏しよう（全2時間） 【教材名】 表現：「つつじヶ丘青春太鼓」
題 材 目 標	和太鼓の特徴（材質、造り）や奏法（構え方、打ち方）に関心をもち、和太鼓の演奏に意欲的に取り組むことができる。 （音楽への関心・意欲・態度） 和太鼓の特徴（材質、造り）や奏法（構え方、打ち方）を感じ取り、和太鼓による演奏表現を工夫することができる。 （音楽的な感受や表現の工夫） 和太鼓の音の特性を生かすための奏法（構え方、打ち方）を身に付け、演奏することができる。 （表現の技能）
配 慮 事 項	基礎的・基本的な内容の確実な定着の工夫 題材指導計画作成上の工夫 ・生徒が我が国の伝統的な楽器の音（和太鼓）の音色のよさに気付き、意欲的に取り組めるよう、地域で活動している和太鼓奏者（外部講師）を活用する。また、一人一人が和太鼓の演奏ができるよう地域の和太鼓保存会より太鼓を借りることによって興味・関心を高めながら取り組むことができるようにした。 ・少ない授業時数で、基礎・基本を定着することができるよう題材で身に付けさせたい技能（指導内容）の焦点化を図った。 単位時間における工夫（音楽活動の基礎的な能力を伸ばす指導・援助等） ・題材のねらいを通して、和太鼓の響きのよさを味わうために教師が「つつじヶ丘青春太鼓」を作曲し、自分たちの生活の中の喜びや苦しみを表現できるように工夫した。 ・教師や外部講師の範奏を授業に取り入れ、本物の音を聴かせることによりさらに音色や奏法に関心をもち意欲的に取り組めようにした。 ・和太鼓の伝統的な練習方法（唱歌を口ずさみながら打つ）をすることができるよう楽譜にドコドンなどの唱歌を記入した。
参 考 資 料	資料1－演奏に使用した楽譜

2 題材の評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能
器楽			
鑑賞	.	.	
内容のごまとのま評り価規準	<p>【器楽】 楽器の特徴や曲にふさわしい音色や奏法、声部の役割と全体の響きの調和に関心をもち、器楽や合奏の表現をすることに意欲的である。</p>	<p>【器楽】 楽器の特徴を生かし、曲にふさわしい音色や奏法、声部の役割と全体の響きの調和を感じ取って器楽や合奏の表現を工夫している。</p>	<p>【器楽】 楽器の特徴や曲にふさわしい音色や奏法を生かして器楽表現をする技能（読譜力を含む）を身に付けている。</p>
題材の評価規準	<p>和太鼓の特徴や奏法に関心をもち、和太鼓による合奏に意欲的に取り組んでいる。</p>	<p>和太鼓の特徴を生かし、奏法を感じ取り、声部の役割と全体の響きの調和を感じ取っている。</p>	<p>和太鼓の奏法を身に付けている。</p>
単位時間における具体の評価規準	<p>和太鼓の音色や奏法に関心をもっている。 (器楽)</p>	<p>和太鼓独特の音色（正しく構えて打った時のハリのある音や響き）を感じ取っている。 (器楽)</p>	<p>和太鼓の曲にふさわしい音色をだす技能(構え方、打ち方)を身に付けている。 (器楽)</p>

3 指導と評価の計画（全2時間）

時	ねらい	学 習 活 動	評価規準	評価方法	指導・援助
1	和太鼓の特徴や音色のよさに気付き、「つつじヶ丘青春太鼓」のリズムを身に付けることができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>和太鼓の魅力を見つけ、「つつじヶ丘青春太鼓」を演奏してみよう。</p> </div> <p>教師の演奏「つつじヶ丘青春太鼓」を聴き、響きや音色の特徴を学習プリントにまとめる。</p> <p>「つつじヶ丘青春太鼓」は教師が作曲したオリジナル曲。</p> <p>和太鼓について、各部名称、持ち方、構え方、打ち方を知り、実際に太鼓に触れて音を出す。また、「つつじヶ丘青春太鼓」を練習する。</p>	<p>イ - 和太鼓独特の音色(正しく構えて打った時のハリのある音や響き)を感じ取っている。</p> <p>ア - 和太鼓の音色や奏法に関心をもっている。</p>	<p>学習プリント ・響きや音色の特徴について記述内容から評価する。</p> <p>観察 ・進んで和太鼓に触れ、音を出して練習している姿から評価する。</p>	<p>響きや音色について生徒の感想を聞きながらイメージを膨らませる。</p> <p>ばちの持ち方、構え方など机間指導して確認する。 リズムが分からない生徒には一緒に演奏する。</p>
2	「つつじヶ丘青春太鼓」の演奏を通して、和太鼓を演奏するときの胸を張り腰を落とす構え方や、ばちの角度やスナップのかかせ方等の打ち方	<p>前時の復習をする。 ・「つつじヶ丘青春太鼓」を演奏する。 (各グループ別になって) 教師の範奏を聴く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>和太鼓の構え方や打ち方を意識して、響きのある音をだして「つつじヶ丘青春太鼓」を演奏しよう。</p> </div>			

	<p>を理解し、響きのある音で演奏することができる。</p>	<p>構え方や打つ位置、音色を考え教え合いながら練習する。 ・グループ別に分かれて練習する。</p> <p>本時の成果をグループごとに発表し、交流する。 ・各グループの演奏の後に発表形式で交流する。 ・和太鼓について自分の感想を書く。 本時の反省をする。</p>	<p>ウ - 和太鼓の曲にふさわしい音色をだす技能(構え方、打ち方)を身に付けている。</p>	<p>観察 ・構え方や打つ位置、打ち方などにこだわりながら演奏している姿から評価する。</p>	<p>打ち方を意識すると打つ位置が違ってしまふなど、2つの課題を一度に出来ない生徒には、1つずつ課題が克服できるよう援助する。</p>
--	--------------------------------	---	---	---	---

4 単位時間の授業展開例

(1) 本時のねらい

「つつじヶ丘青春太鼓」の演奏を通して、和太鼓を演奏するときの胸を張り腰を落とす構え方や、ばちの角度やスナップのきかせ方等の打ち方を理解し、響きのある音で演奏することができる。

(2) 本時の位置

2 / 2

(3) 展開案

過程	学 習 活 動	評価について	指導・援助
つ か む	<p>1、前時の復習として「つつじヶ丘青春太鼓」を演奏する。 ・4つのグループに分かれて演奏する。</p> <p>2、教師の範奏を聴く。</p>		<p>・教師の範奏によって本時の活動への意欲を高める。</p>

和太鼓の構え方や打ち方を意識して、響きのある音をだして
「つつじヶ丘青春太鼓」を演奏しよう

高
め
る

3, 構え方や打つ位置、音色を考
え教え合いながら練習する。

ウ -
和太鼓の曲にふさわしい音
色をだす技能（構え方、打ち
方）を身に付けている。

観察（以下の姿から評価す
る）

構え方

・胸を張り腰を落とす。

打ち方

・太鼓に対してばちと面の間
に拳が一つ入る角度で打つ。

・手首のスナップをきかせて
打つ。

・面の中心を打つ。

持ち方や構え方、打
ち方など2つ以上の課
題になるとできない生
徒に対して教師が範奏
し、響きや姿を参考に
するよう助言する。

できない部分を見つ
け、部分的に繰り返し
練習するよう指導す
る。

ま
と
め
る

本時の成果をグループごとに前
で発表し演奏を聴き合い、グルー
プ発表後に交流する。

演奏者側

・本時の目標についてできるよう
になった点や気を付けた点などを
演奏前に発表する。

聴き手側

・その点について、どんな演奏だ
ったか発表する。

本時を振り返る。

仲間の演奏に対して、感想
をもつことができたか。

打ち方や構え方の感
想だけにならないよう
「こんな打ち方ができ
ていたから響きがよか
った」など、音や響き
についてつなげさせて
発表できるよう助言す
る。

5 評価の実際と個に応じた指導事例

(1) 本時重点的に取り上げた評価規準

評価規準 ウ -

和太鼓の曲にふさわしい音色をだす技能（構え方、打ち方）を身に付けている。

(2) 評価の実際

— 評価の方法 —

観察

- ・曲の音色（響きやハリのある音）を出すために、構え方（胸を張り腰を落とす）や打ち方（面とばちの間に拳が入る角度で打つ、手首のスナップをきかせて打つ、和太鼓の面の中心を打つ）を意識して演奏している姿から評価した。

— 判断の事例 —

「努力を要する状況」(C)と判断

- ・構え方（胸を張る、腰を落とす、和太鼓から離れすぎない位置に立つ）、打ち方（ばちの角度、手首のスナップ、面の中心を打つ）など意識できずに演奏し、響きのある音がなかなか出せない生徒をCと判断した。

「努力を要する状況」(C)と判断

- ・胸を張り腰を落とし、和太鼓の面とばちの間に拳が入る角度で手首のスナップをきかせ、面の中心を打っている。そして音色（響き）を考え、仲間の音に合わせて演奏できる生徒をAと判断した。

(3) 個に応じた指導の実際（Cと判断される状況への働きかけ）

構え方については、教師が模範姿勢を見せた。実際に生徒に構えさせた時に、教師が生徒の背中・肩を持って胸を張ることを意識させたり、演奏していくうちに構えが崩れてくる生徒には生徒の横について背筋を伸ばすよう助言したりした。腰を落とすことができない生徒には、両足の間隔を広げさせることや、前足をしっかりと曲げ、太鼓から前足が離れすぎないように指導した。また、姿勢が悪いと和太鼓の面の中心が打てず、響きのある音が出ないことも、教師が実際に姿で見せて指導した。

和太鼓の打ち方や響きのある音の出し方については以下のように働きかけた。

和太鼓の面とばちの間に拳が入る角度で打つ音色と、そうでない角度で打つ音色を聴かせて、一番よい音色（響き）が音として出る角度が、面とばちの間に拳が入る角度だと確認した。実際に音を出しながら拳をばちと和太鼓の面の間に入れ、意識させて練習させた。

手首のスナップをきかせて打つ音と、きかせないで打つ音を比べさせ、ボールを投げるときの手首の使い方を思い出させることにより、よく響く音の出し方を感じとらせた。また、教師が生徒の手を持って一緒に演奏し、打つときの手首の使い方や腕の振り下ろし方等の感覚を感じ取らせた。

6 参考資料

資料 1 「つづり+上青巻太鼓」

㊸ 神太鼓	㊹ 鉄打太鼓	㊺ 長胴太鼓
		
		
		
		
		
		
		